

仮想アース Crystal E Jtune の導入(7)(HP 収載)

—EMI DLS529—

1. 始めに

光城精工の Crystal E の特別チューニング仕様の Crystal E Jtune の試聴を順次実施していきます。今回は、PC の USB ポートへの接続で EMI DLS529 のシステムにおける効果を確認します。

2. Crystal E Jtune の試聴方法

接続対象は、前報(2)のとおり、PC の USB ポートで NRF-005 を貼り付けた銅板に電解コンデンサーと抵抗を加えたものから Crystal E Jtune に交換しています。試聴音源は、STAGE+、Spotify、およびファイル音源から選んでいきます。

3. Crystal E Jtune の試聴結果

EMI DLS529 の再生はしばらく行ってきておらず、上記の Crystal E Jtune の他、今回 PX25 シングルアンプで駆動してみることにします。この間に実施してきた入力系の各機器への仮想アース設置や、MRF-005T 処理の効果も併せて確認することになります。また、FAL C90EXW に設置していたムジカライザー ML-6 はスピーカーアキュライザー SPA-7 に交換したことにより、ML-6 に設置していた自作の仮想アースが余ってききましたので、PX-25 と EMI DLS529 の間に設置している ML-6 のマイナス端子に自作仮想アースを接続し、かつ電解コンデンサー 10000F も付与しました。



EMI DSL529 は時代物のスピーカーですし、PX25 は、これまた 300B より設計年代の古い真空管のアンプです。このような組み合わせが、Crystal E Jtune の追加でどうなるかの試聴です。

STAGE+からは、下記を試聴しました。

シューベルト ピアノ五重奏曲「鱒」

リサ・パティアシュベリ (ヴァイオリン) 他

ベートーヴェン 後期ピアノソナタ

マウリチオ・ポリーニ (ピアノ)

J.S.バッハ クリスマスオラトリオ

エリオット・ガーディナー指揮イングリッシュバロックソロイスト

ピアノ五重奏曲「鱒」は、コントラバスの量感は無理があるものの、その他の弦の質感やピアノの響きはバランスよく聴けます。

ベートーヴェンのピアノソナタは、ホールの音響特性の関係で直接音と環境音のバランスが取れており、ポリーニの弾く Fabbrini のスケール感も質感も相当に満足度が高いものです。

バッハのクリスマスオラトリオは、大編成のスケール感や合唱の分離は無理がありますが、ソリストの歌唱やイングリッシュバロックソロイストの古楽器の質感の表現はかなりのレベルに達しています。

Spotify からは、下記を試聴しました。

アントニオ・ヴィヴァルディ チェロ協奏曲集

Hrriet Krijgh(チェロ)

Candida Thomson 指揮 Amsterdam Sinfonietta

J.S.バッハ リュート組曲

Alberto Grugnola(リュート)

J.S.バッハ Goldberg 変奏曲

家喜美子 (チェンバロ)

上記のような時代物のシステムにおける圧縮音源の再生でどうなるかと思われましたが、いずれの曲も予想外にバランスよく新鮮で圧縮音源とは思えない再生ぶりです。ファイル音源としては、小川理子トリオの 78 回転盤アナログからの 5.6MHzDSD 録音音源と菊池洋子の Goldberg 変奏曲のライブ配信の 5.6MHzDSD 録音音源を Hi-Res Editor により再生しました。小川理子トリオは、コーンツイターの限界もあり、ピアノやドラムスのアタック感、ベースの弾み具合に十分でないところがあります。菊池洋子の方は、ピアノ音色は好感が持てますが、もう少し打鍵のアタック感が欲しいところです。

4. まとめ

DLS529 のシステムにおいて、システムの特徴から音源によっては限界を感じるところがありますが、一連の仮想アースと MRF-005T に加え、PC の USB ポートへの自作の仮想アースの接続から Crystal E Jtune への接続替えを実施した効果を認めました。

以上